

学校・教育グループ

学校・教育グループの質問を始めます。

私たちのグループは、学校生活や通学先などについて話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 ストレスのない学校づくりについて

学校は、仲間とともに、いろいろな勉強や体験を重ねることのできる場所です。一方で、集団で生活する場でもあるため、ストレスを感じることもあります。

今日は、いじめへの対応、制服の選択、トイレの改善の3点について提案します。

まずは、いじめへの対応についてです。

いじめは、よくないことです。しかし、平成30年度の調査によると、小学校で5,127件、中学校で1,875件起きています。

私たちの周りでも、先生がいないときにいじめやけんかが起こります。いじめられている人を見たら、その場で注意したり先生に言ったりできればいいのですが、とても勇気の要ることです。また、こうした状況があるだけで暗い気持ちになります。

そこで、提案です。常にクラスに1人、大人がいるようにしてはどうでしょうか。先生は忙しく、休憩時間に教室に居ることはできません。そこで、地域の方や大学生などのボランティアの方に、教室で見守っていただくようにすることができないでしょうか。今、私の学校には、ふれあいひろば推進員が学校全体で3人おられますが、十分ではありません。

次に、制服の選択についてです。

私の通う学校では、制服は男女それぞれ決められた同じ制服を着ることになっており、男子がスラックス、女子がスカートとなっています。

しかし、どうして性別によって制服が違うのでしょうか。スカートは自転車に乗りにくかったり、パンツスタイルが好きという人もいます。性的マイノリティーの人、寒いのが苦手という人もいます。また、全国では、例えば東京都世田谷区が昨年度から全区立中学で性別を問わず制服が選べるようになるなど、制服がジェンダーフリーになる動きが広がっています。

そこで、提案です。児童生徒一人一人が、気持ちに合った制服のスタイルを自由に

選べるようにしてはどうでしょうか。いろいろな人が制服に悩まず、楽しく学校が過ごせるようになると思います。

3つ目に、学校のトイレの改善についての提案です。

児童生徒は、学校に長い時間いるので、必ずトイレを使いますが、学校のトイレは使う人が多いため、いつもきれいに保たれているとは言えない状況です。中には、便座が汚いのが嫌で、トイレを我慢してしまう児童生徒もいます。

こうした中、子供たちが少しでも快適にトイレが使えるよう、洋式化のみならず、床をタイルから塩ビシートに替えて清掃しやすくしたり、温水暖房便座に取り替える公立学校もあります。

もし、災害があって学校が避難所になれば、小さな子供からお年寄りまでトイレを使うことになるので、バリアフリーも大切です。

そこで、提案です。学校のトイレが常に清潔に保たれ、機能も充実されるように取組を進めてはどうでしょうか。みんなが気持ちよく使えるトイレを整えてほしいと思います。

答弁（教育長）

まず、いじめへの対応についてです。

いじめは、人間として絶対に許されない行為です。

御提案の中にもありましたが、いじめの場面を見たときに注意することはとても勇気が要ることだと思います。でも、常にクラスに1人大人がいることで、本当にいじめ問題は解決するのでしょうか。

オランダでは、ピースフルスクールと言って、けんかななどのめごとや対立を児童生徒自身が解決する仲裁役を置いて解決しています。

例えば、飛んできたボールが当たってしまい、ボールの泥が洋服についてしまったことに憤慨した事例です。ボールを投げてしまったAさんと当たったBさんがけんかになったとします。Aさんはわざとやったんじゃないと言い張り、Bさんはわんわん泣きわめいてしまっています。そこに、小学校高学年の児童を中心に仲裁役の役割を担うチョッキを着た人たちが来て、「今何が起こったのですか」と2人に聞きます。泣きわめいているBさんに、「あなたは今、冷静ではありませんね。感情が高ぶっているときはいい話し合いはできません。今すぐ泣きやんで話し合いを始めるか、時間を置いてからにするかどちらにしますか」と聞きます。Bさんは泣きやんで話し合いを始

めることに納得。そこで、仲裁役が2人に何が起こったか事実を確認し、Bさんに「どうすれば気が済みますか」と聞きます。「泥は洗濯をしたら取れるので、謝ってくれさえすればいいわ」と答えます。AさんがBさんに「ごめんなさい」と言い、2人は握手をしてその場は終わりです。

このように、子供たち自身が自分たちの問題解決を始めた姿を見て、大人たちもなかなか話し合いに二の足を踏んでいたものを始めたり、コミュニケーションを取り始めると聞きました。いじめをはじめ、様々な対立は、大人たち自身も成熟しないといけないのかもしれませんが。

大人も子供も心を開いて話し合いによって皆が納得できる着地点を見出せる、そんな社会になればいいなと思います。

学校は、ある種、社会の縮図なので、皆さんの学校でも皆さんの力を結集して、いじめのない学級や学校になるよう取り組んでみてください。

次に、制服の選択についてです。

制服は、学校の種類や地域の状況、校風などを踏まえ、必要に応じて、児童生徒が話し合う機会を設けたり、保護者の意見を伺ったりしながら、各学校において定められています。

御指摘のあったように、東京都世田谷区の学校などは、動きやすさや好みを配慮し、女子がスラックスで登校できるようにしています。

県内の学校でも、制服を新しくする際に、生徒会が主体となり、全校生徒にアンケートを実施し、防寒性の高い生地を選択したり、スラックスやネクタイ着用を選択できるデザインを取り入れた学校もあります。

また、そもそも制服のない学校もありますし、コロナの影響で洗える制服を生徒たちが検討している学校もあります。

今回の提案のように、児童生徒の皆さんが学校の中でおかしいな、不思議だなと感じたときは、それを声に出してみたり、友達や先生と話し合ったりすることがとても大切なことだと思います。

最後に、トイレの改善についてです。

御提案のように、トイレは、快適で誰もが利用しやすい環境を確保することがとても大切です。

ですが、一方でとてもお金がかかるものです。例えば、和式から洋式にして床を塩ビシートにして温水暖房便座に変えた場合、3人が入れるトイレの大きさで、1か所

でおおよそ400万円もかかります。

現在、市町立の小中学校などのトイレの整備については、3分の1は国から交付金が出て、あとの3分の2は市町の役所で負担をするという仕組みで、順番に改善が図られています。

トイレも、全部の学校でというたくさんありますので、一遍にとはいかない状況もあるかもしれません。

しかし、皆さんのように自分の意見をしっかり伝えていくことはとても大切なことですので、これからも続けていってほしいと思います。

質問2 通学先と通学方法の選択について

まずは、通学先の選択についてです。

公立の小学校・中学校の場合、通学する学校は、住んでいる家の住所で、市町教育委員会によって決められます。市町によっては学校が選択できる制度もありますが、入学時であったり隣接学区であったりと、一定の決まりがあります。そして、引っ越しなどで決まりに当てはまらない場合は、本人は同じ学校に通いたくても、元いた地域がさほど遠くない場合でも、転校が求められる場合があります。

そこで、提案です。学校に行ける範囲を広げたり、行きたい学校を自由に選択できるようにしては、どうでしょうか。

私の場合も、小学校4年生の時に隣町に引っ越したため、転校を求められましたが、仲のいい友達と離れたくなかったので、家族が時間をかけて手続きを行い、自分の願いどおり、元の学校に通えるようになりました。少し遠くなりましたが、コミュニティーバスを使っているのでも、通学にかかる時間はあまり変わりません。また、交通費は自分たちで負担しています。

児童生徒の思いが尊重されるような学校選択の仕組みになるといいと思います。さらに、通学費用の助成など、思いを後押ししてくれるような仕組みがあればもっといいのと思っています。

次に、通学方法の選択についてです。

私たちの小学校では、家が学校から遠い人も、重いランドセルを背負って、みんな歩いて通っています。

そこで、提案です。小学校への通学手段を選べるようにする、特に、自転車が使えらるようにはどうでしょうか。そのためには、自転車保険への加入やヘルメットの

着用を義務づけます。また、交通教室の回数も年1回から2回に増やし、小学生の頃から交通ルールを学ぶ機会を増やすといった交通安全対策も併せて行います。

一律に禁止するのではなく、一人一人の状況に応じて交通手段が選べるようにしてもらいたいと思います。

答弁（教育長）

まず、基本的なことから説明します。

学校は、児童生徒の皆さんが自宅を出て学校に来て、そして学校で過ごし、また学校から自宅に戻るまでの安全面を守らなければなりません。

通学中、もしも交通事故に遭ってしまったら。大変なことです。

私自身、幼稚園のときに目の前で自転車に乗った友達が自動車とぶつかって亡くなってしまいました。とてもショックで、今でもその光景は覚えています。

そうならないように、公立小中学校の通学区域については、道路や河川などの地理的状况や地域の歴史などを踏まえて、市町教育委員会で設定されています。

皆が好きな学校を選んで、その通学費も支援していくことになると、費用もかかりますし、第一、今年は一切何クラスになるのか、クラスの数によって先生の数が決まったりするので、様々な計画も立てにくくなってしまいます。

残念ながら、御希望には添えないと思います。ごめんなさい。

また、転校により、仲のよい友達と離れたくないという気持ちはよく理解できます。

しかし、考え方を変えてみると、転校した学校で新しい友達をつくったり引っ越した先の地域のすばらしさを学べたりすることは、とても大切なことだと思いますので、新しい環境で、積極的に自分のよさを発揮してみてもはどうでしょうか。